

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2592400028		
法人名	社会福祉法人 近江薫風会		
事業所名	スマイルグループホーム		
所在地	滋賀県米原市寺倉603番地の3		
自己評価作成日	令和5年3月14日	評価結果市町村受理日	令和5年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2592400028&SCD=320&PCD=25
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和5年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊事業所は、「地域の人々とともに、愛され、安心かつ信頼をされる社会福祉法人」を基本理念に、新しい福祉のスタンダードの構築を目指し、日々、実践いたすことと致しています。私たちがご提供させて頂くサービスは、私たちや関係者がそのサービスを利用した場合にも納得できるものであらねばならないと考えています。当施設では、ご利用者の方の尊厳の保持を最優先に位置づけることは基より、「暮らしの継続」を意識した、ゆったりと、豊かに、その人らしい生活をお送り頂けるよう、常にご利用者の目線に立って、情熱と気概を持って介護のプロとしてあるべき姿を追求していくことと致しています。また、施設運営では、コンプライアンスの保持とリスクマネジメントを最優先課題とし、安全・安心の充実に努めることと致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スマイルグループホームの敷地内には、特別養護老人ホームやデイサービスセンターが併設しており、地域住民とのつながりを大切にされた基本理念を共有し職員研修や防災訓練等お互いに協力し高めあっている。清潔に保たれた明るいリビングからは、四季折々に楽しめる、果樹園や地域ボランティアの協力で花や野菜が育てられている。恒例のゆず湯や収穫した野菜が食卓の一品となり話題がひろがる。職員は、利用者の今までの生活習慣や特性に合わせた出来る力に目を向け一人ひとりのペースを大切にされた支援に努めている。この数年は、コロナ禍の自粛で、地域住民との交流が出来にくい時期もあったが、今後は感染防止対策には留意しながら、地域の行事への参加や外出の支援を増やして行きたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1回、内部研修にて法人代表が経営理念を説明しています。また、理念の習熟度を図るテストを行い、浸透を図っています。職員室内に経営理念を掲示し、いつでも確認出来るようにしています。	新入職員には、施設長が丁寧に理念の説明をし意識づけをしている。また職員会議でも理念に基づいた運営方針を全職員が確認し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員、ご利用者と地域の防災訓練に参加したり、地域の方に法人の防災訓練に参加いただいたり、シルバー人材センターを通じて宿直業務を務めて頂いたり、運営推進委員の方々と、情報交換を適宜行っています。	地域の自治会との協力関係が積み上がっている。防災訓練への参加や事業所の畑作業に来ていただき利用者との交流がある。コロナ禍で自粛だった夏祭りでは、地域の子供や老人会の方と久しぶりに、ふれあう機会となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第2第4土曜日に開設している「ちよつと相談所」では、電話等でも「認知症に関する相談や悩み事」をお受けしています。また、介護サービスに関心のある方は、併せてご案内しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容や施設の運営状況、ご利用者の状況等を報告し、行政、地域、ご家族それぞれかたのご意見、ご提案を聞かせていただき、その意見を全職員が共有してサービスの向上につながるように努めています。	コロナ感染状況により書面会議の時期もあったが定期的に運営会議が行われている。7月よりホームの利用者も参加メンバーに加わり、事業所の現況や取り組みの報告、地域や行政・家族との情報交換や意見交換が活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に一度の運営推進会議にご出席いただき、事業所の状況や取り組みをお伝えしご意見を伺ったり、情報交換等を行っていただきます。	運営推進会議で事業所の現況報告や取り組みを伝え意見交換が行われているとともに必要時はいつでも相談が出来る協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でマニュアルを再確認し、正しい知識を習熟出来るように努めています。また、身体拘束排除委員会では、他のユニットと意見交換や情報交換を行い、正しいケアが行われているかを互いに確認しています。	法人全体で「身体拘束をしないケアについて」外部より講師を招き勉強会をして正しい知識の再確認をしている。利用者に抑圧感のない自由な暮らしをしていただくために一人ひとりの行動をさりげなく見守り声をかけ、時には一緒に歩くことを共有して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修に参加し、そこで学んだ事を参考にして、入浴時や更衣時に、体調等に異変が無い、虐待の疑いがないかを、全職員が確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、内部研修で全職員が習熟を高め、その様な情報を必要とされている方には、情報を提供し、支援を行えるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、順を追って丁寧にご説明させていただき、ご質問やご意見が無いかを都度伺っています。また、介護報酬改定等があった場合は、速やかにご説明の上同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や毎月末の報告の際、ご家族に運営の状況やご利用者の生活状況をお伝えし、ご意見を伺って、サービス向上に努めています。	制限付きの面会であったが、来訪時には要望や意見等を職員は意識的に聴いている。毎月、事業所の現況や利用者の暮らしの様子を伝え意見や要望を伺う機会としている。伺った意見要望は職員間で検討・共有しサービス向上に努めている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員一人ひとりが忌憚なく発言出来る場を設けています。また、年2回、施設管理者、施設長との面談を行い、意見や提案を個別に伝えられる場を設けています。	勤務の関係で直接会議に出席できない職員は、事前に意見や提案を出し検討される。勤務経験に関わらず提案・意見等発言しやすく個別にも相談出来る機会があると職員より聞き取る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のチャレンジャーズで、個々の努力や実績の把握に努めています。また、施設長は、職員の状況を考慮し、ONOFFがうまく出来るよう、働きやすい勤務環境や条件の整備(週4日勤務の実現等)に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には「新人教育プログラム」のもときめ細かいOJT指導を行っています。既存職員については、日頃の勤務から個々の力量を把握し、レベルアップの為に外部、内部研修を受けられる機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で機会は少なくなっていますが、外部研修やグループホーム部会等を通じて同業者と交流し、参考になることを積極的に吸収して、自施設のサービスの向上につながる様に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で、ご本人のご意見に耳を傾け、生活スタイルをよく観察して把握し、その方に合わせた生活を送って頂けるよう、職員間で情報を共有し、ご本人に安心かつ信頼してお過ごし頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や事前説明の際に、ご家族の困りごと、ご不安に思われていることが無いかが、必ずお聞きしています。また、ご要望に耳を傾け、安心して頂けるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のお話を伺い、ご本人の生活歴や健康状態、認知症状を把握し、今何が必要なかを見極め、その方にあったサービスが行えるように努めています。他のサービスが良い場合は、ご紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内で、職員がご利用者と共にお過ごし頂く中で、日常的に会話をしたり、調理や掃除、季節の行事等をご一緒に取り組んで頂き、生活の場として共に過ごすことで、自然と信頼関係が築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、お電話にて日常のお暮らしぶりを報告させて頂き、その際には、ご家族からのご意見を頂き、共にご本人を支える、という関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においても、WEB面会やお電話、感染対策を行ったうえでの面会で、ご本人にとって大切な方いつでも繋がりが持てるように努めています。また、日常の中で地域のお話を伺い、想起して頂いたりしています。	事業所としては、なしみの人との関係継続を願っている。コロナ感染状況を鑑みてWEBや一部制限付きであるが親戚や孫・知人と面会が出来ている。懐かしい場所へ花見に出かける等の支援は継続的に行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者お一人おひとりの認知度や性格を考慮して座席の配置を行い、職員が仲立ちをするなどして、ご利用者同士がより良い関係が保てるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族からの相談やご要望があれば、可能な限り支援をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、ご本人の希望や意向を把握できるように努め、言葉で困難な場合は、ご本人の仕草からくみ取り、対応できるように努めています。	暮らしの中での何気ない、言葉や行動から一人ひとりの思いや、意向を汲み取り把握に努めている。「漬物を漬けてたい」の言葉から得意だった「奈良漬や梅干し」作りになった経緯がある。聴く姿勢に関する研修も行っている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の段階で、ご家族や、現在ご利用されている施設等から聞き取りを行い、ご本人の生活歴や暮らし方を把握し、その暮らしが継続できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所されてからは、24時間シートや出来る出来ないことシートを活用して、その方の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは全ての職員が参加し、月1度のケアカンファレンスでは、課題やケアのあり方等を話し合い、介護計画を作成しています。、それをご家族に提示させて頂き、忌憚のないご意見を頂いています。	個別の基本情報と連動したケア記録を基に職員間で意見交換しモニタリングを行い介護計画作成に反映させている。本人・家族等には面会時や電話等で希望や思いを聞き、意見を伺って介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアプランの実践チェック表を通して、日々の気づきや情報を職員間で共有し、ケアの見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人のニーズや課題を把握して、毎日のケア実践項目にすぐに取り入れる等、柔軟な支援が行えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお地蔵さまや地域の公園まで散歩をして頂き、その風景の中で季節を感じていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望をお聞きし、かかりつけ医の受診の支援を行っています。また、事業所の主治医へ情報提供を行うことで、連携を取って頂いています。	内科については事業所のかかりつけ医で受診し健康管理されている。他科への通院は基本家族同行で情報提供・診療情報を関係機関で連携し適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、自施設の看護師が同席し、ご利用者の情報の共有を行っています。また、体調不良の方がおられる時は、必要な処置についての意見を受け、適切な医療のサポートが受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、当施設の介護サマリーをお渡し、退院の際は、病院の看護サマリー、リハビリ情報を頂くことで、相互の情報共有を自測しています。その後も連絡を取り合うなどして、関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前説明や契約時に、重度化した場合における当施設の指針についての説明を十分に行っています。また、重度化された際は、主治医からのアドバイスや支援の方法を頂き、ご家族と十分な話し合いを行うように努めています。	設備面や医療ケア体制が整っていないため看取りは行っていない。身体的に重度化の兆しにある場合は、かかりつけ医からの説明、本人・家族・事業所等関係者との話し合いを重ね住み替えの提案をしている。	高齢者の事業所が避けて通れない課題です。事業所の力量や体制について話し合う機会があるといいですね。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内の内部研修を通して、急変や事故発生時の備えに関する知識を習熟し、またマニュアルの見直しも随時行って、見易い場所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、夜間、発生の想定では、宿直職員の方にも参加して頂いています。また、土砂災害に対する訓練も年1回実施し、災害に備えています。	定期的に昼夜を想定した避難訓練が行われている。地域との協力関係が築かれている。災害時の食料・非常物品の準備もある。	地域から具体的な避難経路の問題点など具体的に聞け素晴らしいと思います。引き続き様々な避難方法や減災について話し合っていられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格を理解し、その方に 応じた接し方や話し方を工夫して対応をして います。また、プライバシー保護に関する内 部研修に参加し、習熟出来るように努めて います。	日常の密なかかわりの中でその方を知り、 人格を尊重しながら適切な対応を行ってい る。親しみから行き過ぎた言葉使いになりが ちな時は、職員会議で具体的に確認しあい、 注意喚起を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	日常的に、各ご利用者とコミュニケーション をしっかりと取り、ご本人が自然とご自分の思 いや希望を表現しやすいように配慮してい ます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間をはじめ、それぞれの方が 優先される事を大切にし、お一人おひとりが ご自分のペースでお過ごし頂けるように努 めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	その日着ていただく洋服は、ご自分で選ん で頂きます。ご自分で選択が難しい方 は、毎日同じ洋服にならない様に職員がサ ポートしています。また、整容は離床された 後、居室にて行っていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	毎日の長事の盛り付け、長器洗いは必ず 一緒に行っています。日曜日の昼食作りで は、皆様のご希望のメニューをお聞きし、調 理では、それぞれが出来ることを協力され ながら楽しく準備して頂けるように努めてい ます。	同敷地内の施設で一括調理された温かい食 事を、利用者がホームで盛り付けている。日 曜日の昼食作りでは、畑でとれた野菜を使 い、それぞれの力を活かし包丁を使って切る ところから調理まで職員ともに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	日々の食事量や水分量を業務管理ソフトで 記録し、情報を職員間で共有することで、そ の方の食事の状況を把握し、食事形態や 水分摂取の方法を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎月2回、歯科の先生と歯科衛生士による 口腔往診に来ていただき、口腔内の観察、 必要に応じてケアを行って頂いています。 毎日のお食事の前には口腔体操を、お食 事の後には口腔ケアを欠かさず行っていま す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方に合わせたトイレの声掛けを行っています。また失敗の軽減に努めることで、自立支援につなげています。	トイレの場所がわからなかったり、トイレが理解できない方には、日ごろの行動や、排泄前のしぐさなどをとらえ、トイレの表示を見やすく、タイミングを計って誘導できるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	業務管理ソフトの活用により、排便のパターンを把握して支援し、併設施設看護師との医療の連携も図っています。また、お薬だけに頼らず、乳製品により腸内環境を整え、適切な運動にも取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員と会話を楽しみながら、リラックスして入浴して頂けるように努めています。また、午前、午後とお好きな時間に入って頂けるよう、可能な限りご要望に応えられるように努めています。	希望の方には夕食後の入浴も可能になるよう職員体制を工夫した。今後就寝前の要望にも応えて行きたいと考えている。畑でとれたゆずを入れるゆず湯は毎年恒例となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりが、ご自分のリズムで自然に入眠出来るように、居室やホールの環境を整え、それぞれのタイミングで眠って頂いています。また、日中に休みたい方もおられるので、その支援も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を全職員が理解し、ご利用者の症状の変化にいち早く気づけるようにしています。新たな処方や変更がある時は、申し送りや記録にて周知するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とされる事の把握に努め、日常生活の中で、創作物作り、障子張りや裁縫、お花の手入れ等を行っています。また、家事作業を積極的に行って頂き、生活の中での役割を持って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近くの公園や施設周辺まで散歩に行ったり、中庭にて畑の作業やお花の手入れをして頂いています。	敷地内は自由に散歩をし、敷地外に出るときは職員と一緒に、川向こうのお地藏様に手を合わせに行ったり、公園まで足を延ばす。いちご狩りや盆梅展には家族も一緒に参加し、お盆にはお墓参りに帰る方もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で日常的に使うお金を管理される方は、ご自分で施設内の自動販売機や、施設内の移動販売をご利用いただく事で、金銭感覚の維持を図っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話やオンラインによる会話、手紙のやり取りが気軽に行って頂けるように、随時支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって掲示物を変えたり、季節の花を飾ることで、四季を感じて頂けるように工夫しています。また、空調や明るさ、音に対しても配慮し、ご利用者が不快に感じないような空間作りに努めています。	大きく書いた日付や、メニューを見やすいところに掲示し大きな窓からは外の自然の景色が広がり、食事前には外の天気を見ながら季節、日にちを確認しあっている。共有空間は、すっきりと整理されており、利用者が混乱のないよう細部にまで配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、自席以外にもソファを設置し、お席での賑やかさから離れて、静かにゆったりとくつろいで頂けるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使用されていた物や、愛着のある物を自由に持ち込んで頂けるように配慮しています。居室の掲示物は、その方の目線に合わせて、いつでも目に入りやすいように工夫しています。	手作業が好きな方は大きな机を持ち込まれたり、作品を飾りたい方は壁一面に並べてある。物があると混乱する方は、すっきりと整え、一人ひとりが安心して過ごせる部屋づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境の中で、分かること、出来ること、が維持して頂けるように、居室の名前や、トイレ、浴室を表示し、日付表も分かりやすいように、手作りで工夫をしています。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍の約3年間、ご家族や、ご本人にとって大切にしてこられた馴染みの方と会う機会がずっと制限されていた。コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行され、感染対策に留意しながらではあるが、そうした支援が可能な状況となった。	3年間実施出来ていなかった「家族会」を再開させる。	令和5年10月下旬に実施。ご入居者ご家族にご説明の上、ご希望の方に多くご参加いただき、ご入居者と食事やレクリエーションで楽しく過ごして頂くイベントを実施する。	2ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた支援を行う際、常にご本人、ご家族との話し合いの場を持ち、方針を共有している。看取り支援までは行っていないが、そうした体制も含めてご説明している。こうした取り組みを継続していく必要がある。	引き続き、現在の施設の指針について十分にご説明を行い、終末期を迎えたご本人、ご顔族の意向に沿った支援が行われるようにする。	4か月に1度の担当者会議の際、必ず現在の状況と、今後重度化された場合のご希望を話し合い、方針を共有する。以前と異なるご希望をされた時は、随時職員間で情報を共有し、そのご意向に沿った支援が行えるようにする。	12ヶ月
3	35	定期的な防災訓練により、災害時の避難方法を職員が把握出来るようにし、訓練に地域の方にも参加いただいたり、地域主催の避難訓練にも参加するなど、協力する体制が出来ている。今後も、こうした状態を継続していく必要がある。	引き続き、定期的な訓練と地域との協力体制を維持していく。	火災や自身、水害など、様々な状況を想定した訓練を継続する。地域主催の避難訓練にも引き続き参加し、万が一の被災の時には、お互いに協力出来るように、顔の見える良好な関係を築く。	12ヶ月
4	49	令和5年5月よりコロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行された。実際の状況としては、未だ感染は続き終息には至っていない。引き続き対策は必要なものの、本来望まれている皆様のご希望や、季節に応じた外出支援が同時に求められている。	コロナ禍で行なえていなかった、ご入居者が本来望まれている外出支援を実施していく。	お買い物を希望される方の外出支援、ご家族との外出や外泊を希望される方への支援、季節に応じた外出(紅葉狩りや初詣、春季はお花見など)を随時実施し、ご入居者に喜んでいただける外出支援を行う。同時にご入居者や職員の健康状態に留意し、感染対策を継続して行う。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()